

令和7年度 授業改善推進プラン（理科）

1 学校全体の取組

- 研究テーマ
学び合い、教え合い、高め合う集団の育成 ～対話的な学びの充実を目指して～
- 研究仮説
心理的安全性の視点に基づいた学級経営・集団の育成を図り、それを基にした学び合い・教え合いの活動を取り入れた
授業を行うことで、生徒の対話的な学びが充実し、新たな視点・価値観を見出すことができるようになる。
- 協調学習について
研究テーマの実現を目指し、その仕掛けとして「協調学習」を推進しています。
協調学習：一人ひとりの生徒が自らの頭で考え、仲間と考えを比較吟味し、より適切な答えをつかっていく学習スタイル。

★長友 謙治

2 全体アンケートからみる研究テーマに対する教科の成果

- ・意識調査の授業について、『授業では、他の人と交流しながら課題を解決する活動を行っていると思う。』に対して、満点4.0のうち3.0で、学び合い・教え合いの活動が定着し始めている。
- ・意識調査のどのように学習を進めていますかについて、『他の人に自分の考えを説明したり、分からないときに質問や相談をしたりしながら、自分の考えを広げ深めようとする学習の進め方』が満点4.0のうち2.8で、生徒の対話的な学びが定着し始めている。

3 全体アンケートからみる研究テーマに対する教科の課題

- ・意識調査の授業について、『授業では、前の時間までに学習した内容と結び付けて考える時間があると思う。』に対して、満点4.0に対して2.9で、2の成果で、他の人と交流することは高く出ているが、前の時間などで学習したことを関連させる意識が少し低くなっている。
- ・意識調査の学習する理由は何ですかについて、『分かることやできることが楽しいから』や『しっかりと考えるようになりたいから』が高めに出ているが、学校以外での学習の進め方に対して、『教科書を読むなどして、授業のこれから学習することの見通しをもつようにしている。』が満点4.0に対して2.6と少し低めになっていて、その都度の授業には、きちんと取り組もうとする姿勢を見ることができ、先のことに見通しをもって進めることが課題と考えられる。

4 課題に関する分析（児童・生徒の実態含む）

1年生は、中学校の授業方法そして、理科の考え方に慣れることを大切にしていた。また、学習内容的に、生物の分類などの知識的内容が多かったため、前の時間の内容を用いて考えるなどの内容が少なくなってしまう。
3年生は、イオンに関する内容で、こちらも化学式など知識的内容が多かった。また、2年生で学習した原子分子、化学反応式の内容を用いることが多く、忘れてしまっていることも多く、復習を兼ねて、教授型の授業が多くなり、こちらも前の時間の内容を用いて考えるなどの内容が少なくなってしまう。

5 課題を改善するためのより具体的な手だて

- (1) 学習内容にもよるが、行えそうな内容の場合は、ジグソー法などの協調学習を増やすことで、生徒の主體的な学びの充実をはかる。
- (2) ジグソー法は、未履修内容をエキスパート内容とする場合もあるが、既習内容をエキスパート内容とすることで、前に学習した内容を関連させる機会を増やす。

★堀 和宏

2 全体アンケートからみる研究テーマに対する教科の成果

対話活動を以前よりも取り入れるようになったが、理科の学習内容や実験の考察について、意欲的に話し合っている様子が見られた。自分のもっている知識や新たに考えられたことを仲間たちとすり合わせて答えを導き出す過程を楽しんでいる様子が見られた。
また、「授業の内容は分かるか」「教科の学習は得意か」という質問事項についても理科については4段階中3.5と2.9と高い水準を示しており、話し合い活動を取り入れたことによってより一層意欲的に学習に取り組めるようになった様子が伺える。

3 全体アンケートからみる研究テーマに対する教科の課題

話し合い活動を実施した際に、参加できない生徒がいた。また、ほかの人の意見を聞いて受け入れるだけとなり、自分の意見を伝えたりすり合わせたりすることができない生徒が一定数いる。
授業中の発言については、特定の生徒の発言に偏りがちである。もっと満遍なく生徒が発言できる空間をつくらせたい。
また、2学年としては「答えがすぐに見つからないことを、友達といろいろな意見を出し合って考えるのは楽しいと思う。」という質問項目が他学年と比較して低い。

4 課題に関する分析（児童・生徒の実態含む）

アンケートからも2学年の心理的安全性が以前より伸びてきたものの、まだ低いことが伺える。そのため、この点の改善を引き続き図り、失敗しても良い雰囲気や他人と意見を交わすことの楽しさをつくらせることが必要である。教員側で意識し、この研究に臨んでからは良い成果が出ていることは明らかなので、引き続き心理的安全性の意識をして、クラス運営にも授業づくりにも取り組んでいく必要がある。

5 課題を改善するためのより具体的な手だて

- (3) 「科学は失敗から始まる」ことを引き続き伝え、生徒との対話や生徒同士の対話を大切にしながら授業を進行する。単元に1度は、生徒同士で答えを導き出す活動（ジグソー・エキスパート）を入れる。
- (4) 授業の心理的安全性は学級運営から始まる。学級で他人の意見を大切に声かけや指導、仕掛けを積極的に取り入れていく。